

KARUIZAWA ROTARY CLUB



2023-2024 年 RI テーマ

例会日 毎週月曜日 12時30分～13時30分

例会場 軽井沢プリンスホテル ウエスト

事務局 〒389-0112 軽井沢町中軽井沢9-3 軽井沢町商工会館内

TEL 0267-46-4970 FAX 0267-46-5445

RI 会長 ゴードン R. マッキナリー RI2600 地区ガバナー 折井正明

東信第一グループガバナー補佐 羽毛田匡

会長 小野克永 幹事 佐藤学 クラブ会報委員長 中沢雅子

E-mail k-rotary@jfbn.net ホームページ www.karuizawarotaryclub.com



CREATE HOPE
in the WORLD

第2658例会 2024. 3. 25.

12:30 点鐘 会長 小野克永君 司会進行 副幹事 佐藤敏明君
ロータリーソング「それこそロータリー」ソングリーダー 干川慎一郎君
ゲスト 山崎大介様、穴澤怜久様、行田颯羽様、伊藤瑠奈様、市川 樹里安様



《会長あいさつ》 会長 小野克永君 「ロータリーにおける社会奉仕の意義」



彼エドガー・アレンにつき物語ることは、古今を通じる最大なる人道主義的貢献の一つを記録することである。彼が不幸な児童のためにその自然の権利であるべき生活権を確保するにあたって、その運動の本拠にロータリーを選んだ事は、ロータリーにとり多大なる名誉であったと言わざるを得ない。かくて国際不具児童協会は、主としてロータリアンの努力を通じ、不具児童の福祉増進を目的とする四十有余の州機関および地方機関を樹立している。もし、ロータリーは存在理由に不足しているのではないかとの疑念を持つ読者があるならば、ロータリーの上述の社会奉仕が幾百万の児童に独立性を付与し、幸福にして有用なる生活を営み得るに至らしめたと言う事実思い至ることを望む。この功績は挙げてエドガー・アレンとその協力者に帰すべきものである」



また、ポール・ハリスは次のように書いています。「サービスがロータリーのスーパーハイウェイであり、四つの主要なサービスはこの道路を構成しているレーンである。どのレーンを走るかは各自の好みと、その地域の必要性によって選ばなければならないのであって、どのレーンがいいと言うのはないのである。むしろ、その様な議論は、ロータリーは何かと言う議論を巻き起こし混乱を招くので、有害無益である」。

ここで、以上の話しをまとめてみますと、ロータリー哲学は歴史上大きな転換点を少なくとも2回経験しました。その一つは、1906年から1913年に亘る一種の革命です。これによって、最初は会員だけの親睦や相互扶助だけの「仲良しクラブ」であったものから、「超我の奉仕」を基盤にした奉仕団体に生まれ変わったのです。ロータリーの憲法である「ロータリーの目的」も奉仕の理念で貫かれています。

一方、ポール・ハリスは友情と寛容を重要視しましたし、その輝きは今でも色あせることはありませんが、大事な事は、ロータリーの本質は超我の奉仕だということです。

第2の転換点は、決議23-34が出された1923年のセントルイス大会をきっかけに、職業奉仕至上主義が否定されて、職業奉仕も社会奉仕と同じ奉仕部門の一つになったことです。そして、ポール・ハリス

も社会奉仕に超私の奉仕の理想を認め、他の多くの人たちもそれに同調して社会奉仕に力を入れるようになり、それが現在の世界的なロータリー活動の主流になっているのではないかと思います。

ポール・ハリスは次の様に言っています。「世界は常に変化している ロータリーは、この世界と共に変化し成長していかねばならない ロータリーの物語は 幾度も書きかえられねばならない」。

以上が、主としてポール・ハリスの著作などを参考にしてまとめた国際ロータリーの歴史の流れです。*次回に続く

《幹事報告》 幹事 佐藤学君

★ガバナー折井正明様、青少年奉仕委員長脇田博美様より

RI 第 2600 地区 RYLA 開催のご案内 5月11日(土)、12日(日)

於；千曲市観光会館 ロータリアン1名登録と会員数×1,000円の協賛金

★ガバナー折井正明様、ガバナーエレクト白鳥敬日瑚様より

RI 第 2600 地区「2024-2025 年度のための地区研修協議会」開催のご案内(オンライン開催)

4月7日(日) 出席者(次期)会長幹事、会員増強、公共イメージ向上、社会奉仕、青少年奉仕
米山記念奨学、ロータリー財団、デジタル化推進(各委員長)

★地区米山記念奨学委員長 町田清様より 2600 地区 2024 年度

米山奨学生カウンセラーオリエンテーションのご案内 4月14日(日) 於；松本中央公民館

★通信物=①事務所移転連絡先の変更 小諸 RC・小諸浅間 RC 小諸市赤坂 1-16-1 赤坂てんじん薬局 2F

②地区青少年育成基金規定 ③ハイライトよねやま 288 号 ④RYLA 参加募集パンフレット

⑤軽井沢町ボランティア情報誌かるぼら 3月号 ⑥Rotary Magazine

★クラブ会報=千曲川 RC



《ロータリー米山記念奨学会より 委嘱状》

世話クラブ 軽井沢ロータリークラブ
米山奨学生カウンセラー 佐藤一郎会員



《出席委員会》 大工原巧君

	会員数	本日出席	メイク	合計	出席率	訂正出席率
3月25日	35	23	0	23	65.71%	65.71%



3月25日
¥22,000

ニコニコBOX報告

金澤明美君

★グアム派遣学生を歓迎して。金山委員長ご苦勞様です…干川慎一郎君

遠藤孝君、佐藤敏明君、佐藤学君、尾沼好博君、大工原巧君

金澤明美君、佐藤好雄君、金山城太郎君、柳沢洋一君、袖山卓也君

佐藤一郎君、今井亮君、横山繫君、中沢雅子君、大雲芳樹君

長岡秀秋君、福井英子君、秋山貴史君、古越道夫君、上田直人君、丸山哲君



《第 53 回グアム派遣学生帰国報告》

国際奉仕委員長 金山城太郎君

3月6日、ここにいる軽井沢高校生4人は元気よくグアムへ出発いたしました。1人はインフルエンザで一緒に行けなかったんですけども、インフルエンザと言う事で逆に強行してグアムに行かない方が結果的には良かったのかなと思っております。



ただし、今度6月受入とかその準備に関しては行けなかった生徒もぜひ参加して頂いて、ここにいる4名とまた力を合わせてグアムから来て下さるメンバー、グアムの学生達と一緒に盛り上げて頂ければと思っています。宜しくお願い致します。

では学生たちの報告をお聞き頂きたいと思います。



行田颯羽君

僕のグアムでの特に印象に残っている思いが2つあります。一つ目はグアムにある男子校に行ったことです。僕の身の回りに男子校というものがないのでどんなものか最初は緊張していましたが、実際に行ってみると元気のある学校に驚くとともにとても楽しいと思いました。バディになった生徒も拙い日本語で話しかけてくれたりとても親切に接してくれていました。海外ならではのコミュニケーション能力に触れて好奇心や憧れと同時に恐怖心すらも覚えました。

二つ目はボートに乗って向かったイナラハンと言う村に行って、そこでは原住民が昔どのような生活をしてたか、こういう植物があるという歴史の深い話を聞かしてもらいました。これは僕の持っている偏見ですが、日本人は新しいものを好む習性があると思いますが、しかしグアムでは古い考えや歴史文化などにしっかり目を向け大切にしていることがわかりました。今回のグアム派遣に参加して僕が得たとても大きな経験は昔の文化や歴史を深く知り生きていくことの大切さと、コミュニケーションを取ることの大切さです。



伊藤瑠奈さん

10日間で私は沢山の事を経験することができました。今日はその中でも2つの事について話したいと思います。一つ目はグアムの食文化についてです。私は海外が初めてで、本場で地域の食文化に触れるということは初めての経験でした。日本料理は鮮やかな色、香り、見ても美しい事が特徴的ですが、グアムで食べたチャモロ料理は味だけでなく視覚的にも刺激的で毎日の食事が楽しみでした。一番印象に残っているのは3日目に皆で作ったピザです。歳の近い友達と作るピザはグアムの食に触れることができた一番の思い出です。二つ目は美しいグアムの景色、そこを実際に感じる事ができたことです。6日の朝軽井沢を出発する時にはとても寒く、沢山の雪が降っていました。グアムに着いて飛行機を降りた瞬間に暖かい空気が私を包んでくれました。グアムのロータリークラブの方々が快く私達を迎えてくれました。2日目はグアムの自然を満喫しました。ジャングルに行って植物について学んだり、牛に乗ったり軽井沢では体験できないことを沢山の経験できました。ジャングルで汗をかいた後はプールに行って友達と一緒に疲れるまで泳ぎました。

そして目標であった日本食を伝えるという事については一緒にお団子を作ることで達成できました。

市川樹里安君

私がグアムへ行って知りたかった事は多文化社会がどのような仕組みで働いているのかを知りたかったのです。私の勘違いだけかも知れませんが、私はグアムとかアメリカ、そういう国では差別とかそういうものは日本より無いという考えを持っていたんですけど、ホストファミリーから話を聞いて、ホストファミリーの息子ハーブなんです。父親が白人、母親がチャモロ人で、純粋なチャモロ人ではなかったんで、周りのチャモロ人からは差別やいじめられているという事を言われました。私はちょっとショックを受け、日本だけではなく海外でもそのような行動が続いていることを知りました。



二つ目は教育に対しての事です。日本では全部義務付けられていて選択というものがないんですけど、グアムでは中学生のころから全部選択できることが一番驚きました。軽井沢高校では2年から授業が選択できますけれど、グアムではその人がやりたいように将来の事を考えて選択できるという事が非常に良いと思ったので、日本でも同じようなシステムが広がれば良いと思いました。

三つ目は人と人との関係が日本よりは強いと感じました。私のホストファミリーや学校の生徒達の間で地域の人達の名前も全部知っているくらいみんなの事を考えていましたし、文化や歴史全員ちゃんと考えて関心を持っていることが一番良かったと思っています。日本人の浅い歴史や浅い文化だけを知るだけではなくちゃんと自分達の故郷の事を考えて生活したほうが良いと思いました。



穴澤怜久君

私がグアムでの印象に残った体験はグアムでの学校生活です。私はグアムでの滞在中4つの学校に行きました。グアムでの学校の授業はひとつも軽井沢高校で受けているものとは異なりとても印象的なものでした。

もう一つはグアムで体験した文化について話したいと思います。私はグアムでスリングストーンと言う古代チャモロの文化を体験しました。創世記とも呼ばれていてパチンコの要領で石を飛ばすことを意味しています。昔、銃などの武器がなかったころ飛び道具として敵との戦いに使われました。これはグアムの国旗にも使われている楕円形の模様はあれがモチーフになっているそうです。昔からの文化を大切にしていると感じました。

私のグアムへ行った時の目的は食文化を伝えるというのとグアムの人と一緒に習字を書きたいというものだったんですけど、持っていった習字道具をホストファミリーの方に渡し半分自分が書いてもう半分はホストファミリーの方に書いて貰うことができ、これを飾る額縁を買わなくてはと言われてとても嬉しかったです。



軽井沢高校教諭 山崎大介様ご挨拶

この度、軽井沢高校生をグアム派遣という事で多大なるご支援を頂いた事に職員一同感謝申し上げます。この伝統的な行事が5年振りに開催できたという事でこの明るいニュースは今後の軽井沢高校にとっても非常に良い影響があるかと思っています。

今後とも軽井沢高校を暖かく見守って頂ければ幸いです。ありがとうございました。



《四つのテスト斉唱》
《点鐘》